

平成28年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ホーブ  
 コード番号 1382 URL <http://www.hob.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(氏名) 政場 秀  
 (氏名) 吉田 周史

TEL 0166-83-3555

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年6月期第2四半期の連結業績(平成27年7月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年6月期第2四半期	2,545	△14.7	43	6.9	50	18.6	3	△85.2
27年6月期第2四半期	2,985	24.9	41	△62.2	42	△66.9	26	△77.2

(注)包括利益 28年6月期第2四半期 3百万円 (△85.6%) 27年6月期第2四半期 26百万円 (△77.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年6月期第2四半期	5.10	—
27年6月期第2四半期	34.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
28年6月期第2四半期	2,225		983	44.2			1,290.68	
27年6月期	1,310		991	75.6			1,300.74	

(参考)自己資本 28年6月期第2四半期 983百万円 27年6月期 991百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年6月期	—	0.00	—	15.00	15.00
28年6月期	—	0.00	—	—	—
28年6月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成28年6月期の連結業績予想(平成27年7月1日～平成28年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,614	△10.6	32	△3.8	39	1.7	0	△98.7	0.42

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料4ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料4ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年6月期2Q	762,000 株	27年6月期	762,000 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

28年6月期2Q	75 株	27年6月期	75 株
----------	------	--------	------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年6月期2Q	761,925 株	27年6月期2Q	761,925 株
----------	-----------	----------	-----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビューは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策の効果や個人消費の持ち直し等により緩やかな回復傾向にありますが、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動の長期化や、円安による物価上昇、海外景気の下振れによる国内景気への影響が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、自社いちご品種「ペチカプライム」「ペチカサンタ」を中心に、業務用いちご果実及びその他青果物の販売拡大に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,545,654千円(前年同期比14.7%減少)、営業利益43,887千円(前年同期比6.9%増加)、経常利益50,781千円(前年同期比18.6%増加)となりました。なお、繰延税金資産の取崩しがあったことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,885千円(前年同期比85.2%減少)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります

## (いちご果実・青果事業)

いちご果実・青果事業は、当社と株式会社ホープ21が行っております。その主力商品は業務用いちご果実であります。当第2四半期連結累計期間においては、夏秋期は自社品種である「ペチカプライム」「ペチカサンタ」と輸入いちごを、その後は国産促成いちご(とちおとめ、さがほのかなど)を主に販売しております。

夏秋期におきましては、自社品種の出荷が想定を上回る量で推移したことに加え、8月中旬以降は一転して極端な落ち込みとなったことで、収益に繋げる販売には至りませんでした。

最需要期となるクリスマス期におきましては、秋以降の温暖な環境の影響で、市場へのいちご入荷量が潤沢となったことで、いちご市場相場価格は過去に例がないほどの安値傾向となりました。このため売上高は、前年同期を下回ることとなりました。利益面は、仕入価格の低下に伴い、固定価格での販売先に対する利益を確保することとなりましたが、第一四半期までの落ち込みをカバーするには至りませんでした。

その他青果物につきましては、取扱量の減少により、売上高・利益とも前年同期を下回る結果となりました。

この結果、いちご果実・青果事業の売上高は1,771,393千円(前年同期比20.5%減少)、営業利益は74,500千円(前年同期比12.3%減少)となりました。

## (種苗事業)

種苗生産販売事業は、自社いちご品種の「ペチカプライム」と「ペチカサンタ」を中心に種苗の生産販売を行っております。栽培方法には、秋に苗を定植し翌年春から秋にかけて果実を生産する秋定植と、春に苗を定植し夏から秋にかけて果実を生産する春定植の、概ね2体系の作型があります。第2四半期連結累計期間におきましては、主に秋定植用苗を販売しております。前年同期と比べて、新たに秋定植を始める生産者がいたものの、全体としては高齢化による栽培休止や規模縮小の影響により、苗販売数量は約11%の減少となりました。種苗生産の原価抑制に努めたことから、利益は前年同期を上回りました。

この結果、種苗事業の売上高は9,130千円(前年同期比12.8%減少)、営業利益は399千円(前年同期は営業損失991千円)となりました。

## (馬鈴薯事業)

馬鈴薯事業は、株式会社ジャパンポテトが行っております。主に種馬鈴薯の生産販売、仕入販売と、青果馬鈴薯の仕入販売からなり、主要売上品である種馬鈴薯には、秋から春にかけて販売する春作と夏に販売する秋作の2体系がありますが、そのメインは春作種馬鈴薯です。当第2四半期連結会計期間におきましては、主に春作種馬鈴薯販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間は、種馬鈴薯販売におきましては、販売が好調であったことで売上高、利益とも前年同期を上回ることができました。また、青果馬鈴薯の販売におきましては、加工用販売を推進したことで売上高は減少しましたが、これにより物流経費の抑制が図られたことから、利益は確保することができました。

この結果、馬鈴薯事業の売上高は725,749千円(前年同期比2.2%増加)、営業利益は54,136千円(前年同期比24.3%増加)となりました。

## (運送事業)

運送事業は、株式会社エス・ロジスティックスが行っております。関東圏を中心とした事業展開で、当社の商品配送を中核としつつ、一般荷主への配送業務受託を積極的に行った結果、売上増加を図る事ができました。一方、自社配送原価を抑制して、提携業者並びに共同配送業者を効率的かつ積極的に運用することで、利益の確保に努めてまいりましたが、車両故障による、予定外の修理費用の発生があり、利益は減少することとなりました。

この結果、運送事業の売上高は39,381千円(前年同期比9.8%増加)、営業利益は5,637千円(前年同期比6.7%減少)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①財政状態の状況

## (流動資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比較して929,371千円増加し、当第2四半期連結会計期間末で1,931,855千円となりました。これは売掛金が増加したことが主因であります。

## (固定資産)

固定資産は、前連結会計年度末と比較して14,333千円減少し、当第2四半期連結会計期間末で294,093千円となりました。これは有形固定資産及び投資その他の資産が減少したことが主因であります。

## (流動負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比較して916,879千円増加し、当第2四半期連結会計期間末で1,119,817千円となりました。これは買掛金及び短期借入金が増加したことが主因であります。

## (固定負債)

固定負債は、前連結会計年度末と比較して5,819千円増加し、当第2四半期連結会計期間末で122,727千円となりました。これは退職給付に係る負債及び役員退職慰労引当金が増加したことが主因であります。

## (純資産)

純資産は、前連結会計年度末と比較して7,660千円減少し、983,404千円となりました。なお、自己資本比率は前連結会計年度末の75.6%から44.2%となっております。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末と比較して69,208千円減少して385,596千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果使用した資金は331,582千円(前年同期は329,888千円の使用)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益50,781千円の計上、仕入債務611,883千円の増加があったものの、売上債権995,222千円の増加、たな卸資産85,488千円の増加があったことによるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は6,102千円(前年同期は6,611千円の使用)となりました。これは主に、敷金及び保証金の回収による収入13,965千円があったものの、有形固定資産の取得による支出2,839千円、敷金及び保証金の差入による支出15,640千円があったことによるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果取得した資金は268,476千円(前年同期は299,883千円 of 取得)となりました。これは主に短期借入金の返済による支出200,000千円があったものの、短期借入れによる収入480,000千円があったことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、経営環境及び最近の業績動向を勘案し、予想数値を修正いたしました。

なお、当該予想数値に関する詳細は、平成28年2月5日に開示しました、「平成28年6月期第2四半期(累計)連結・個別業績予想と実績との差異並びに通期連結・個別業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	455,813	386,605
売掛金	367,867	1,363,090
たな卸資産	52,018	137,507
未収還付法人税等	14,004	—
その他	117,199	45,018
貸倒引当金	△4,418	△364
流動資産合計	1,002,484	1,931,855
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	116,462	112,670
機械装置及び運搬具(純額)	47,623	46,544
土地	70,111	70,111
その他(純額)	1,664	1,639
有形固定資産合計	235,862	230,966
無形固定資産		
のれん	23,743	22,346
その他	3,465	2,322
無形固定資産合計	27,208	24,669
投資その他の資産		
その他	46,349	39,451
貸倒引当金	△993	△993
投資その他の資産合計	45,355	38,457
固定資産合計	308,427	294,093
資産合計	1,310,911	2,225,949
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	114,462	726,345
短期借入金	—	280,000
未払法人税等	15,160	21,819
賞与引当金	1,397	1,425
その他	71,917	90,226
流動負債合計	202,938	1,119,817
固定負債		
退職給付に係る負債	38,265	40,997
役員退職慰労引当金	75,690	78,575
その他	2,952	3,155
固定負債合計	116,908	122,727
負債合計	319,846	1,242,545

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	421,250	421,250
資本剰余金	432,250	432,250
利益剰余金	137,397	129,853
自己株式	△90	△90
株主資本合計	990,807	983,263
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	258	140
その他の包括利益累計額合計	258	140
純資産合計	991,065	983,404
負債純資産合計	1,310,911	2,225,949



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
売上高	2,985,281	2,545,654
売上原価	2,504,931	2,067,722
売上総利益	480,349	477,932
販売費及び一般管理費	439,299	434,045
営業利益	41,050	43,887
営業外収益		
受取利息	511	422
貸倒引当金戻入額	—	4,054
その他	1,353	2,490
営業外収益合計	1,864	6,967
営業外費用		
支払利息	96	72
営業外費用合計	96	72
経常利益	42,818	50,781
特別利益		
固定資産売却益	159	—
特別利益合計	159	—
税金等調整前四半期純利益	42,978	50,781
法人税等	16,771	46,896
四半期純利益	26,206	3,885
親会社株主に帰属する四半期純利益	26,206	3,885

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	26,206	3,885
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	41	△117
その他の包括利益合計	41	△117
四半期包括利益	26,248	3,768
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	26,248	3,768
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	42,978	50,781
減価償却費	10,345	9,012
のれん償却額	1,396	1,396
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5,165	△4,054
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	1,741	2,731
賞与引当金の増減額(△は減少)	270	28
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2,685	2,885
受取利息及び受取配当金	△511	△422
支払利息	96	72
有形固定資産売却損益(△は益)	△159	—
売上債権の増減額(△は増加)	△1,076,747	△995,222
たな卸資産の増減額(△は増加)	△63,267	△85,488
仕入債務の増減額(△は減少)	699,297	611,883
その他	91,396	79,098
小計	△285,312	△327,298
利息及び配当金の受取額	511	45
利息の支払額	△151	△85
法人税等の支払額	△45,467	△18,951
法人税等の還付額	531	14,706
営業活動によるキャッシュ・フロー	△329,888	△331,582
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△4,709	△2,839
有形固定資産の売却による収入	185	—
無形固定資産の取得による支出	△543	—
貸付けによる支出	—	△1,360
貸付金の回収による収入	229	22
敷金及び保証金の差入による支出	△15,944	△15,640
敷金及び保証金の回収による収入	14,379	13,965
その他	△207	△250
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,611	△6,102
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	570,000	480,000
短期借入金の返済による支出	△240,000	△200,000
配当金の支払額	△30,116	△11,523
財務活動によるキャッシュ・フロー	299,883	268,476
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△36,616	△69,208
現金及び現金同等物の期首残高	383,319	454,805
現金及び現金同等物の四半期末残高	346,702	385,596

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	いちご 果実・青果 事業	種苗事業	馬鈴薯事業	運送事業			
売上高							
外部顧客への売上高	2,228,663	10,475	710,267	35,875	2,985,281	—	2,985,281
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	95,079	95,079	△95,079	—
計	2,228,663	10,475	710,267	130,955	3,080,361	△95,079	2,985,281
セグメント利益又は損 失(△)	84,948	△991	43,553	6,045	133,557	△92,506	41,050

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△92,506千円には、セグメント間取引消去514千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△93,020千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	いちご 果実・青果 事業	種苗事業	馬鈴薯事業	運送事業			
売上高							
外部顧客への売上高	1,771,393	9,130	725,749	39,381	2,545,654	—	2,545,654
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	88,674	88,674	△88,674	—
計	1,771,393	9,130	725,749	128,055	2,634,328	△88,674	2,545,654
セグメント利益	74,500	399	54,136	5,637	134,673	△90,786	43,887

(注) 1. セグメント利益の調整額△90,786千円には、セグメント間取引消去388千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△91,174千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。